

2019年 東京 EAC 広報部会主催のイベント

“ローカル列車で巡る静岡のんびり鉄旅”

東京設計管理研究会 広報部
吉田 健・西山 洋一
(2019. 9.17 記)

今年の広報部会主催のイベントは、9月度セミナー(ヤマハ/袋井)翌日の9月14日(土)に、掛川駅を起点とする“第2の東海道線”の鉄路を利用して、沿線の酒造工場や鉄道博物館・ヤマハミュージアムなどを観て・聞いて・食べて・飲んでの旅でした。

前日の飲み疲れ?の影響もなく、参加者の皆さん(全11名)が朝9時30分に天竜浜名湖鉄道(天浜線)の掛川駅に集合しました。天浜線は戦時下、東海道本線のう回路として蒸気機関車により運行されていた路線で、沿線には、当時の面影を残す駅舎や施設が残されていました。

まず最初に訪れたのが、宮口駅近くにある“花の舞酒造”です。お店に到着した我々を迎えてくれたのが、杜氏の「土田さん」で、最初に酒造りの行程を紹介するビデオを見せて頂いた後、工場の一部を見学させて頂きました。



天浜線 宮口駅で下車



お店や工場を紹介いただいた杜氏の土田さん

さて、見学の後は皆さんが一番楽しみにしている試飲会場へ案内されました。お店でしか飲めない搾りたての生原酒をはじめ、お店で販売している全ての銘柄のお酒やワイン・梅酒などを試飲することが出来ました。なかでも杜氏がお薦めの「蔵元限定生原酒」は、ほどよい香りと共に、すっきりとした味わいのあるお酒でした。

花の舞のお酒の特徴は、酒造りに好適米の最高峰である山田錦を地元から供給を受け、水は背後にある富士山や南アルプスの伏流水を存分に使用して、名実ともにこだわりの「地酒」を誕生させています。

昼食は、前もって土田さんに仕出しお弁当(これが思ったよりりっぱでした)をお願いして手配頂き、お店からご提供頂いた「生原酒」と「おいしい水」を頂きながら、お酒にまつわる話をしながら楽しい一時を過ごしました。



生原酒とお水が付いた昼食



左党の皆さん！ご満足頂いた様子ですね？

帰り際に皆さんお気に入りのお酒を購入して、お店を後にしました。

再び、宮口駅まで戻り、天浜線で天竜二俣駅に向い、文化財レベルの施設を案内嬢のガイドで巡る『転車台・鉄道歴史館見学ツアー』に参加しました。駅構内には、現在でも可動する転車台や扇形車庫が現存し、全国的に見ても貴重な鉄道遺産だそうです。

さらに、「鉄道歴史館」には、実際に二俣線で使われた資材・機材なども展示されており、熟年世代からは「懐かしい！」という声が…。



今でも現役の転車台と扇形車庫



懐かしい鉄道資材と機材の展示

次に向かったのが、天浜線の西鹿島駅で下車し、遠州鉄道(通称;赤電)に乗り換え、沿線の八幡駅近くにある『ヤマハイノベーションロード』を見学しました。

ここは、ヤマハの長い歴史の足跡と挑戦し続けた世界観や魅力を発信し続ける拠点として設立され、現在と未来に向け、「見て」、「聴いて」、「触れて」体感できる「場」を提供する企業ミュージアムでした。

ピアノやバイオリンを弾く人、トランペットを吹く人、ドラムをたたく人、バーチャルステージでの画像と演奏を楽しむ人など、新たな感動を楽しんでいました。



歴代の名器から現行製品までの展示



コンサート会場さながらのライブ演奏

最後に、ミュージアムのロビーで今回のイベントの予定は終了した事を伝えて解散しました。

今回のイベントに参加頂いた皆さん！ 楽しかったでしょうか？
また、この記事を読んでいる会員の皆さん！ 来年も楽しい企画を計画しますので、その際は、是非、ご参加ください。

以上